



株式会社バイナリーの沿革と変遷

1 会社の概要

- ・ 会社商号 株式会社バイナリー
- ・ 設立年月日 1982年(昭和57年)11月24日
- ・ 所在地 〒108-0072 東京都港区白金3-17-10
URL <http://www.binary-inc.co.jp>
mail info@binary-inc.co.jp
Tel. 03-6277-3602 Fax. 03-3449-8702
- ・ 代表取締役 桑原 秀時
- ・ 資本金 1000万円
- ・ 事業内容 あらゆるソフトウェア システム(メインフレーム、パソコン、スマホ、マイクロプロセッサ)の開発と設計

2 システム開発の理念

『ものを造ることができる』これは単純ですが重要なことです。

もの造りの原点とは独創性に他なりません。

無理に適応させる為の順応策ではなく、弊社は独自の進化への試行策を探求し続けます。

宇宙の真理を探究すると、総ての科学は一体であると確信することができます。

すべてがリンクし関連し合った自然の摂理に他なりません。

学術分野の垣根を越えて、より自然な、本来あるべき関係を見出した者こそが、新しいテクノロジーへの扉を開くことができるのです。

『萬有一体』とは、弊社が技術開発を進める上での基本方針となるものです。

3 会社の沿革

弊社バイナリーは、1982年(昭和57年)にソフトウェア会社として設立され、およそ30数年間、あらゆるコンピュータシステムの開発一筋にまい進してまいりました。

メインフレーム(大型汎用コンピュータ)からパソコン、マイクロプロセッサに至るまで、開発環境こそさまざまですが、提供する独創的なソリューションは、皆様から絶大なる信頼をいただいております。

- 1973年(昭和48年)以降、『日本電気 NEAC 2200シリーズのOS(オペレーティングシステム)開発』を始めとして、『旧三井銀行の貸付・外為オンラインシステム』、『住友信託銀行のローンシステム』、『首都圏労働金庫預金オンラインシステム』、『丸紅鉄鋼部の予決算システム』、『(株)旺文社の在庫管理システム』などなどの開発に従事してきた、桑原秀時(現代表)の個人事業所として発足する。
- 1982年(昭和57年) 有志盟友の賛同を得て、東京都豊島区駒込に『株式会社バイナリー』として法人登記される。その後、第一中央汽船の『船舶運航管理システム』、日刊スポーツ新聞社の『自動編集システム』、(株)旺文社の『大学入試模擬試験システム』、(財)日本英語検定協会の『実用英語検定システム』、などの開発に全面的に参加協力して高い評価を得る。
- 1995年(平成7年) 自動車用マイクロプロセッサ DTS(デジタル チューニング システム)の試作に成功する一方、(株)旺文社のパソコン版学習システムの開発に全面支援協力するなど、開発の主力をメインフレームから、パソコンや

マイクロプロセッサへと移行するきっかけとなる。

- 1999年(平成11年) 新規業務のため、千代田区三崎町に本社を移転登記する。
(株)リクルートの『大学入試事典・推薦入学事典』、の自動編集システムを開発する。
チケットぴあ、グルメぴあの会員管理、サイト管理システムなどの開発を協力支援する。

- 2001年(平成13年)業務拡張のため、新宿区山吹町に本社を移転登記する。

『教育関連システム』を中心に、『メインフレーム』と、『パソコン』を繋ぐ、インターフェース部分に特異性を発揮し弊社独自のハイブリッドDB(Pockets DB)を開発し、業務の効率化に貢献する。

- 2009年(平成21年)更なる飛躍のため、本社を港区白金に移転登記、同じく高輪に事業所を新設し活動を開始する。

- 2012年(平成24年)東京ビックサイトでの、「教育ITソリューションEXPO」、に独自開発システムを出展し、長年培ってきた、その独創的な教育システムは、高い評価と賛同を得る。

- 2013年(平成25年)厚生労働省の『障害者自立機器等開発促進事業』にスマホを使った、『携帯版ガイドヘルパー(SYNAPS)』を応募し、事業説明会に出席。

- 2016年(平成28年)新潟事業所設立構想の市場調査と具体策の立案を開始。

以来、『文・教育ソリューション』はもちろんのこと、あらゆる業種の様々なシステム開発に、その『独創性と斬新性』、『萬有一体』の開発理念をもって邁進している。